

石川県警察本部少年サポートセンターとの連携による 立ち直り支援活動

団体名 ● 池田幸應・中尾真和ゼミナール / 代表者名 ● 池田幸應(人間科学部教授)

はじめに

社会生活での情報化が急速に進み、私たちを取り巻く生活環境も大きな変化し、子どもたちの非行もその数は減少傾向ではあるが、内容が深刻化している。警視庁でも「地域の少年は、地域で育てる」という意識をもって地域ぐるみでの取り組みの重要性を指摘している。これまで、石川県警察本部「少年サポートセンター」と本学人間科学部スポーツ学科池田ゼミナール(地域環境を活かした野外教育、スポーツ教育、地域ボランティアの推進)が連携・協働し、継続的に非行少年の立ち直り支援活動を行ってきた。2019年度より、池田ゼミナール学生に加え、経済学部の中尾ゼミナール(身近な法律を学び地域社会に貢献する：中尾真和 経済学部准教授)も参画し、その活動の輪を継続、発展した。

活動内容

本年度における直り支援活動として、少年の自然体験活動支援及び交流活動等を以下の日程で実施した。なお、両ゼミナールから3名の学生が令和元年度「全国少年警察学生ボランティア研修会」(9/5)にも選出され参加した。〔4/18ジャガイモ種植え、5/18夏野菜植付、6/22案山子作り及び設置、7/13ジャガイモ収穫、夏野菜収穫、シチュー作り、8/21夏祭り、8/28大根種まき、10/14サツマイモ収穫、12/26クリスマス会〕



写真1 少年のジャガイモ収穫活動サポート(7/13)の様子



写真2 全国少年警察学生ボランティア研修会(9/5)へ参加したゼミナール学生3名(右から2～4人目)

成果、結果の考察

現在の子どもたちを取り巻く社会状況では、犯罪の低年齢化、凶悪化が一層進み、これから親となるべき年齢層であり、学生自身にとっても「犯罪」は決して遠い存在ではない。多くの学生にとっては、非行少年に接したり、その更生活動に参画することは、殆んど無いため、この少年サポート活動は、少年やその保護者、サポートセンター関係者にとって、役立っているばかりか、学生自身の成長にも繋がっているものと推測される。参画学生にとっては、犯罪に対する抑止意識や子どもたちへの健全育成への関わり意識が向上しており、実際に本活動に参画した池田ゼミナールOBの多くが、現在警察官として地域社会で活躍している。

今後の課題、展望

現在、2つのゼミナール学生を中心に取り組んでいるが、この連携を更に深化させ、より多くの視点を有する他大学の学生や高校生等とも協働で取り組むことで、サポートの更に輪を広げたい。